連載
Vol.33

インテリジェント・ロジスティクス Vol.33

～　最終回に寄せて～

2015 年 5 月に Vol.1 を発刊して以来、3 年以上が経ち、お蔭様で 33 回目を迎えました。
発刊当時は、モノとモノがインターネットで繋がる IoT（Internet of Things :モノのインターネット）という概念が浸透し始めて、世の中が大きく変革するのでは？と期待に胸を膨らませワクワクした気分を味わったと記憶しております。
物流の世界も例外なくこの IoT の波によって変革を迫られ、IoT がもたらす次世代の物流の姿である「インテリジェント・ロジスティックス」の時代がやってくる。一体それはどういう世界なのか？どのような概念なのか？どんな技術で実現しうるのか？また、どんな効果をもたらすのか等、このメルマガを通じて皆さまにお伝えして参りました。

Vol.2 では、そもそも物流とは何ぞやという視点に立ち戻りました。
昨今、インターネットの発展に伴い、モノの供給スピードが一段と速まるにつれ、改めて物流というものが、企業活動において、その重要性を増してきていると認識をいたしました。

Vol.3～5 では、IoT の基本構造の説明を行い、近未来の物流センターや小売店舗での仮想体験談のお話をいたしました。

Vol.6 では、特に日本の製造業・流通小売業を取り巻く状況を、SWOT 分析で再確認し、なぜ変わる必要があるのかということを説きました。
一方、変わる必要性は理解するも、日本の現場には IoT に代表されるようなデジタル化の展開において大きな障害があることを Vol.7～8 で話しました。
それは「紙」の存在であり、その障害への対処方法を示しました。

IoT は、つまるところデジタル化によっての業務効率向上、業務改革である訳ですが、Vol.10～14 では、デジタル化により生まれてくるさまざまな問題や課題に物流現場の方との対談などを通じて焦点を絞ってみました。
対談を通じて見えてきたことは、何が何でもデジタル化がいいかと言うとそうではなく、アナログの良い面を忘れてはならず、その両者がバランスよく協業していくことが必要だということが分かりました。

Vol.15 からは、IoT 時代に求められる具体的な組織構造や役職、働き方などを論じました。
所謂社内に蓄積した、あるいは蓄積していくビッグデータなどのデータ活用・分析を行うといった新しい機能を持ったスペシャリストの台頭などです。

また、Vol.18 では、産業構造が大きく変革するこれからの時代、人の働き方や仕事の内容は大きく変わっていくことが予想されるとし、それが具体的にどのように変わっていくのかを考察しました。

Vol.19 からは 3 回に渡って、具体的な「IoT 導入ステップ」を解説いたしました。

また、Vol.23～26 では、有識者との対談レポート記事を企画し、IoT とロボットが物流業界に何をもたらすのか？そのメリットとデメリットは？という話題を紹介いたしました。
また、Vol.27,31 では、世の中にあまりにも多く出回っている情報が、書類として果たして「見やすい」「読みやすい」「わかりやすい」ものになっているのかという問題提起を行い、「情報品質」という概念に焦点を当てました。

以前申し上げましたが、IoT は、Internet of Thing「モノのインターネット」ですが、IT（インフォメーションテクノロジー）と OT（オペレーションテクノロジー）からなっていると考えることもできます。
以上の連載を通じて見えてきたことは、IoT や AI など IT 領域の新しいテクノロジーを勉強して、取り込み、世の中の大きな動きに追随することはもちろん重要ではありますが、大事なことは、OT の部分をどう変えて、マッチングさせていくかという点も決して忘れることはできないということでした。
IoT などの新しいテクノロジーを活かすも殺すも、結局は人であるということです。

物流に限らず製造業の現場でも、熟練作業員の方の職人・匠の技に代表されますように、ヒトの手や知恵による技や工夫が特に日本においては優れており、それが競争力の源泉になっているといっても過言ではありません。

日本が、今後グローバルな競争に勝っていくためには、IT と OT の融合を図り、日本独自の IoT を構築していくことが必要となりますし、それが達成できたら、真の意味での働き方改革の実現がやってくると思います。

長年ご愛読いただきまして誠にありがとうございました。

三宅　信一郎

読者の皆様の声を、ぜひお寄せください。
アンケートフォームはこちら　↓
https://f.msgs.jp/webapp/form/13501_hzt_77/index.do
（お答えいただいた皆様には、ささやかですが粗品を差し上げます）